

## 巻頭言

# 昭和36年度の畜産予算について

蔵 知 毅

昭和36年度の畜産予算も3月県会において確定した。今年度の畜産の事業費は3億4百2万円で人件費を併せると実に3億8千4百43万円8千円となり、大幅の増額となった。特に有畜農家創設事業費、学校給食用牛乳供給費、ジャージー牛の導入費等が前年度より減額になっているので、この減額を考慮すると、事業費に於て約1億の増加になったわけである。

主なものについてみると、集約牧野、改良牧野、の補助が70%と大幅に増加され、面積においても650陌になり、更に牧道8千米が助成されることになった。又蒜山地区に大規模牧野の造成を行ない、県営の育成場も設置する計画である。

次に麦作転換に伴う自給飼料の増産とその共同化を促進するための生産施設に対して助成する計画である。

次は乳、肉、卵の生産を主な目的とする収益性の高い畜産を対象に、一定基準に適合する地域を指定して畜産の主産地を形成する計画であって、調査地区と事業を行なう市町村に対して助成を行なう予定である。

養豚振興に対しては、種豚を購入して、牡1、牝10を1セットにして、これを農協に貸付し、養豚の集団地帯を作る他、新たに種豚場を設置するための

計画も進めている。

又自給飼料の増産に伴い、牧草の種子が不足することが予想されているので、本年度牧草種子を無償で配布し、翌年度還付を受けて更に他の農家に配布を繰り返す事業も計画しているのである。

又酪農振興のために新たに酪農大学校を開設し、農家の子弟で実務に従事する者を、1年の内4ヵ月集めて教育し、3ヵ年で1コースを終る様にし、実際に経営をやりながら勉強をする様な学校にしたいと考えている。

その他集約酪農地区に酪農経営改善指導所を新設し、多頭飼育の経営指導所にする計画である。

畜産関係試験場についても、昨年度に引続き、整備拡充を行ない、内容の充実を図ると共に、農家の指導も併せて行なう計画である。

以上の様に新しい事業もあり、又従来からの事業の拡張もあり、今年度は相当畜産に重点が置かれた予算が組まれているのである。我々は所得倍増は畜産によってと云うことを目標にして、大いに張り切って計画を進めているのである。それぞれ各地に適した事業もあることであるので、大いに畜産振興計画を樹て、県とタイアップして畜産を発展させる様に御協力をお願いしたいものである。